



2026年 9 月15日

各 位

会 社 名	株式会社Synspective
代 表 者 名	代表取締役CEO 新 井 元 行 (コード番号：290A 東証グロース)
問 合 せ 先	取締役CFO 志 藤 篤 (ir@synspective.com)

小型SAR衛星コンステレーションを共有する新プログラム 「Synspective OMNIA」のリリースに関するお知らせ

当社は、本日開催の経営会議にて、小型SAR衛星コンステレーションの観測能力を複数ユーザーで共有する新プログラム「Synspective OMNIA」をリリースすることを決定しましたので、そのコンセプトを下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 新プログラムを開始する理由および目的

現在、安全保障や防災領域を中心に、天候や昼夜を問わず広域を高頻度で観測できるSAR衛星コンステレーションの需要が急速に高まっております。多くの政府・企業が、SAR衛星データとその解析能力を、自由かつセキュアに活用することを望んでおります。

一方で、政府・企業が単独で衛星システムを構築・維持する場合、多額の初期投資および継続的な運用保守費用が発生するほか、観測対象地域外ではその観測キャパシティが活用されないという非効率性が課題として指摘されております。

当社は、この課題に対し、コンステレーションの観測能力を複数ユーザーで共有（シェアリング）するプログラムの確立が、顧客のDecision autonomy（意思決定の自律性）と経済効率性の両立に資するとともに、当社の収益基盤の拡大にも資すると判断し、本プログラムをリリースすることを決定いたしました。

2. 当プログラムの概要

- | | |
|--------------------|--|
| (1) 名称 | Synspective OMNIA
(OMNIA はラテン語で「すべて」「万物」を意味します) |
| (2) 内容 | 衛星コンステレーションの観測能力を複数ユーザーで共有（シェアリング）するプログラム。
参加者は、巨額の投資を行うことなく、特定地域およびパスにおける優先的な観測・データ取得権を確保し、意思決定における主権と経済合理性を両立した衛星データ利用を実現します。 |
| (3) 想定顧客 | 安全保障・防災領域を中心とする各国政府機関および企業 |
| (4) 当プログラムが目指す提供価値 | (1) 投資効率およびコストの最適化
衛星本体および地上設備の整備・運用費を単独で負担し、それらすべてを占有するモデルに対し、当プログラムでは、顧客は特定地域とパスにおける必要データキャパシティ分のみを所有・管理し、余剰キャパシティは他顧客とシェアします。また、必要に応じて、共有されているキャパシティをその都度追加で購入することも可能です。これにより、不要なキャパシティへの過剰投資を回避し、投資対効果を改善します。 |

(2) 観測の高頻度化と冗長性の獲得

少数の衛星を所有し運用するモデルでは観測頻度が1日数回程度に限定され、高頻度観測が要求される安全保障や災害対応では不十分です。大規模な衛星コンステレーションを活用することで、全球規模でより高頻

度なデータ取得が可能となります。また、一部の機体に不具合が生じた場合でも代替機によるバックアップが機能し、運用の継続性が担保されます。

(3) 衛星コンステレーションへのセキュアなアクセス

当社は、2026年2月20日付「（開示事項の経過）防衛省『衛星コンステレーション整備・運営等事業』における特別目的会社設立および契約締結に関するお知らせ」にて公表のとおり、高度な安全保障基準を求める防衛省の事業においてデータ提供事業者を選定されるなど、当社の技術力は高い信頼を得ています。高度な秘匿性やローカル環境での直接制御を求める防衛・インテリジェンス機関向けには、自国地上局への直接ダウンリンクも可能とし、多様なニーズに対応してまいります。

(4) 継続的な技術のアップデート

衛星を所有し運用するモデルでは、所有した時点でのシステム構成技術によって固定され、経年による技術的陳腐化が避けられません。技術のアップデートには再度の巨額投資を要します。当プログラムにおいては、当社が最新世代機への更新・補填を行うため、契約期間を通じて常に最新の観測機能および解析技術を利用可能です。

(5) データ解析能力の獲得

本プログラムでは、衛星コンステレーションのキャパシティだけでなく、当社が強みとするSARデータの解析技術との親和性を重視した設計を目指します。目的に応じた解析ソリューションの導入・カスタマイズを通じて、顧客はSARデータの取得にとどまらず、意思決定に資する情報を得ることが可能です。

3. 新たなコンステレーションの構築について

当社は現在、自社StriXシリーズによる30機以上のコンステレーションの構築を進めておりますが、当プログラムにおいては、それとは別に、新たなコンステレーションの構築を目指します。両コンステレーションを組み合わせることで、観測頻度・冗長性・地域カバレッジをさらに高め、顧客ごとの優先的なアクセス権をより柔軟に提供することが可能となります。

4. 当該事業に係る設備投資額等

新たなコンステレーションに係る具体的な投資計画につきましては現時点において決定した事実はありません。今後、当社取締役会における決議その他の所定の社内手続を経て決定し次第、速やかに開示いたします。

5. 当プログラムの開始時期

当プログラムの提供開始時期は未定です。確定後速やかにお知らせいたします。

6. 今後の見通し

当プログラムが2026年12月期の連結業績に与える影響は軽微であります。

2027年12月期の連結業績に与える影響につきましては、現在精査を進めており、2027年2月に予定しております2026年12月期決算発表において公表する2027年12月期の連結業績予想に反映させたいと、お知らせいたします。なお、それ以前に当社の業績に重要な影響を及ぼす事象が発生した場合には、速やかに開示いたします。

以 上

（将来の見通しに関する記述について）

本資料に記載されている将来見通しに関する記述は、当社の管理外にある事業、経済、規制、競争に関する不確実性および偶発事象によって大きく影響を受ける可能性があり、これらの記述は、当社の将来の戦略や方針に関する特定の仮定に基づいているが、それらは変更されることがあります。